東北学童相撲大会で21年ぶり3回目の優勝！

町内で活動している天心館（修道小学校）の子どもたちが、8月に青森県十和田市で開催された東北学童相撲大会とJOCジュニアオリンピック東北ブロック予選会（東北大会）の結果を報告するため、町長室を訪れました。

天心館は昨年の東北大会において団体戦・学年別個人戦で3位入賞を果たしていました。今年は団体戦において、昨年の結果を上回る21年ぶり3度目の優勝を果たしました。予選を全勝で突破した天心館は決勝トーナメントの初戦で優勝候補の有浦（秋田県）と対戦。2-1で勝利を収め、勢いに乗ると準決勝、決勝は3-0で相手を下しました。

東北大会を終えて、子どもたちは「中学校でも相撲を続け、全国大会出場を目指したい」「個人戦でも全国大会出場を目標に頑張りたい」と次の目標を掲げ、練習に励むことを誓いました。

東北大会優勝を報告するため訪れた天心館のメンバー

団体メンバー
先鋒　阿部　福乃介くん（6年）
中堅　櫻庭　悠　真くん（4年）
大将　小野　光太郎くん（6年）
交代選手
藤田　琉之介くん（5年）
福澤　歓　大くん（4年）

結果
予選1回戦　修道　3－0　朝暘第四（山形県）
予選2回戦　修道　3－0　荒舘（福島県）
予選3回戦　修道　3－0　渋民（岩手県）
【決勝トーナメント】
1回戦　修道　2－1　有浦（秋田県）
準決勝　修道　3－0　原町第三（福島県）
決　勝　修道　3－0　鵜飼（岩手県）

深浦町立中学校のあり方に関する提言

教育委員会は、人口減少に伴う児童生徒数の減少が顕著となっていることから、生徒にとって望ましい教育環境の充実を図るため、令和7年1月、町内各小中学校PTA役員、大戸瀬地区こども園等の保護者代表、町議会議員、地域の学識経験者など22人を委員とした、深浦町立中学校のあり方検討委員会（委員長・傳法尚弘）を設置しました。

この委員会では、令和6年度に実施した『大戸瀬中学校のあり方についての保護者アンケート』の調査結果を踏まえ、今後の大戸瀬中学校のあり方について「深浦中学校と大戸瀬中学校との統合」、「他市町への大戸瀬中学校の教育事務委託」、「現状維持」の3項目について、令和7年9月まで5回の協議を重ねました。

9月16日、これまでの協議の内容をまとめた提言書が、草創教育長へ答申されました。

今後は、教育委員会が提言書の内容を基に大戸瀬中学校の再編に向けた説明会を行い（開催場所や日程は後日お知らせします。）、今年度中に「大戸瀬中学校の再編に関する基本方針」を決定する予定です。

傳法委員長から草創教育長へ提言書を提出

提言書の内容は町公式ホームページに掲載しています。

https://www.town.fukaura.lg.jp/fixed_docs/2025092900029/

F-ミーティング

町長と町民グループが地域の活性化・住みよいふるさとづくりなど、よりよいまちづくりのために意見交換を行うF-ミーティングの第2回・第3回が開催されました。

第2回を「ライダーズクラブ深浦」と、第3回を「関婦人会」と行い、町の観光に関することや地区で感じている課題、これから挑戦してみたいことなどについて、町長と意見交換を行いました。

ライダーズクラブ深浦

8月31日、横磯地区にあるライダーハウス深浦で「ライダーズクラブ深浦」と第2回F-ミーティングを開催しました。

「ライダーズクラブ深浦」は町内のライダーを中心に活動している団体で、町外に住んでいるライダーや一緒にツーリングに行きたい人など、幅広い人たちが所属しています。

工藤清典会長や初代会長の鳴海重喜さんら11人のメンバーが参加し、ライダーとしての視点から町の観光やイベントの開催について、交通・道路事情についてなどを話し合いました。

深浦町の海岸線を走る国道101号は信号も少なく、景色も良いことからライダーにとって絶好のツーリングスポットであることから、「バイクの町宣言を行い、全国のライダーにPRしてはどうか」という提案やJR五能線と並走できる場所があり、「ライダーに人気のスポットになるのではないか」といった意見が出されました。

ミーティングは和気あいあいとした雰囲気で行われ、多くの意見や提案が出されました。平沢町長は「行政が一方的にやるのではなく、皆さんが主役になってやっていくのが一番うまくいくと思う。皆さんの力をお借りしながら今後もまちづくりに取り組んでいきたい」と語りました。

関婦人会

9月3日、関地区の集会所で「関婦人会」と第3回F-ミーティングを開催しました。関婦人会会長の中原つるえさんを中心に10人のメンバーが参加し、関の甕杉や地域の高齢化に関すること、道路の整備についてなど様々な話題について話し合いました。

関の甕杉は、近隣に駐車場や公衆トイレも整備されており、周辺には石碑も存在していて、昔から大切に守られてきたものなので、きれいに整備することはできないかという意見が上がりました。

また、地域の高齢化や少子化に関する事では、地域の子どもたちが少なくなっており、見かけることが少なくなってきたことや若者たちが町外へ出て行ってしまうことなど地域の課題が語られました。道の駅に漬物などの商品を出品している人たちも高齢化しており、作れる量が少なくなってきていることから、引き継いでくれる人を探さなければ、昔ながらの味が失われてしまうことも憂慮していました。

今回のミーティングでは、深浦町に暮らす住民として感じている不安や課題などについて、多くの意見が聞かれました。しかし、課題を解決するために「こういったことをしてはどうか」「こういうことはできないのか」という前向きな提案も多く交わされ、平沢町長からは町が行っている対策や活動を説明し、今後考えられる対策などについて関婦人会の皆さんと語りました。